令和6年度第2回小牧市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日 時	令和6年7月29日(月) 午後2時～午後2時35分
場 所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>安藤 和憲 区長会代表者 石川 雄一 区長会代表者 寺井 清美 区長会代表者 魚本 猛司 区長会代表者 加藤 晴規 区長会代表者 稲垣 幸子 小牧市女性の会 今枝 正 こまき環境市民会議 宇佐美 史夫 小牧市消費生活改善推進委員会 杉山 光次 小牧商工会議所 郷司 達哉 尾張中央農業協同組合 川淵 義隆 公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会北尾張支部 清田 啓嗣 株式会社不二屋(ナフコ)</p> <p>◎清水 真 学識経験者 野村 重樹 公募委員 舟橋 精一 公募委員 秋田 重巳 公募委員 馬場 容子 公募委員</p> <p>※ ◎会長 ○副会長</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 市民生活部長 落合 健一 市民生活部次長 鈴木 尚紀 ごみ政策課長兼ゼロカーボンシティ推進室主幹 宮下 美則 リサイクルプラザ所長 丹羽 誠 ごみ政策課ごみ減量推進係長兼ゼロカーボンシティ推進室専門員 岡田 康助 ごみ政策課ごみ減量推進係兼ゼロカーボンシティ推進室主事 伊藤 将 ごみ政策課収集美化係兼ゼロカーボンシティ推進室主査</p>
欠席者	<p>○深堀 修 区長会代表者 大野 公大 一般社団法人小牧青年会議所 高橋 美喜雄 愛知県食品衛生協会 小牧支部</p>
傍聴者	0名
配布資料	<p>・次第 ・危険ごみの名称変更及び刃物類の分別区分変更について</p>

主な内容

1 あいさつ

手持ち資料確認、清水会長あいさつ

2 議事

(1) 危険ごみの名称変更及び刃物類の分別区分変更について

- ・議事(1)「危険ごみの名称変更及び刃物類の分別区分変更について」の資料に基づき、新名称及び変更内容について説明。周知方法等について質問意見をいただいた。

3 その他

(1) ごみ処理基本計画の延伸について

- ・事務局より口頭にて「ごみ処理基本計画の延伸」について説明を行った。

【理由】市制70周年を迎えるにあたり上位計画である環境基本計画の見直しや新型コロナウイルスの影響の為。

意見質問等なし。

- ・質疑応答について下記の通り。

(1) 危険ごみの名称変更及び刃物類の分別区分変更について

(稲垣委員)

令和7年の1月からは刃物類は金属類として緑の袋に入れればいいのか。

(事務局)

1月からはその認識で構わない。

(稲垣委員)

金属類として出す際は刃物の刃先は新聞紙やダンボールで包んで緑の袋に入れてしまっているのか。それとも何か別の方法で出すのか。

(事務局)

刃物類の出し方は現在の方法と変わらず、刃先を紙や段ボールなどで包み刃物の表記をしていた上で、金属類として緑の袋で排出していただくよう周知する予定である。

(稲垣委員)

緑の袋で排出すると言うとペットボトルや金属等品目を分けずに排出してしまう人が多々いる。そういった方向けに広報等で適正に周知していただけるとありがたい。

(事務局)

品目を分けずに排出してしまう人は転入したばかりの方や外国の方などによく見受けられる。

引き続き広報やSNS等を利用し啓発を続けていきたいと考えている。

(宇佐美委員)

説明の中では従来通りの袋で出すと言っていたが新しい袋を使用するといったことは考えていないのか。

(事務局)

袋の変更については考えていない。発火性危険ごみについては中身の見える透明袋、刃物類については緑の袋で金属類として排出していただきたい。

(宇佐美委員)

緑の袋に該当する物であればごちゃごちゃで良いということか。

(事務局)

使用する袋はすべて同じ緑の袋であるが、ごみ集積場に排出する際はペットボトルであればペットボトルのみ、金属類であれば金属類のみで緑の袋に入れて排出する必要がある為、中身を混在させて出すことはできない。

(宇佐美委員)

少なからず私も混在して排出して良いのかと思っており、同様の認識をしている市民はたくさん

いると思う。

(稲垣委員)

私もそう思う。本人は間違っていると思っておらず、地域の関係性などもある為中々指摘しづらく、最終的には周辺住民が仕分けをしている状況である。市民に対してよい啓発方法等があればぜひお願いしたいと思う。

(事務局)

我々のほうでは当たり前だと思って事務を進めてしまうことが多々あるが、ご指摘内容を受け止め分りやすい啓発に努めていきたいと思う。

(宇佐美委員)

一般の方にはわかりやすくしないといけないと思う。分別早見表を使用している方も多いと思うが、資源に該当する物は緑色に塗られておりすべて同じ袋で良いのではないかと思ってしまう。

(事務局)

品目ごとにリサイクルの方法も違い、搬入先も異なるためどうしても品目ごとに分けていただく必要がある。今後は発火性危険ごみへの名称変更もある為分りやすい啓発方法を模索していきたい。

(宇佐美委員)

品目ごとに分けると言っているが市民の方は徹底してごみの分別・排出をしているのか

(事務局)

市民の方の大半は分別を守り排出をしていただいているが、不適正な排出も一部ある。不適正な排出があった場合には廃棄物適正処理指導員が個別の訪問指導を行っている。

(宇佐美委員)

概ね分別を守って排出しているということではよかったか。

(事務局)

多くの方は適正に排出していると思われる。

(加藤委員)

今回小型の充電式電池の出し方という話であったが、どういうものがそういった製品なのか分りにくい為、製品自体に分りやすく明示するよう働きかけはできないのか。現状ではどの製品に充電式電池が内蔵されておりどれが危険ごみに該当するのか分からない。電池が内蔵されており、発火性の危険がある製品ということであれば製品自体に明示することで根本的な解決につながるのではないかと思う。

(事務局)

小型充電式電池の発火というのはどの市町村においても問題視している事項である。

国や県へ要望する機会があればぜひ要望させていただきたいと思う。

(安藤委員)

危険ごみとして不適正に排出されていた割れた陶器やガラスというのは名称を変更することで危険ごみとして排出されなくなるだろうと考えられるが、割れたガラス等はどこに出すのが適正なのか、という意識にはつながるのだろうか。そもそも陶器やガラス類はどこに出すのが適正なのか。その部分を徹底しないと意味がないのではないか。

(事務局)

本来陶器やガラスは破砕ごみで出すことが適正である。しかし割れてしまった陶器やガラスについては先端が鋭利なため危険なイメージが先行してしまい、「危険ごみ」として排出されてしまっているのが現状である。今回名称を変えることで先行しているイメージを払拭し改善することを狙いとしている。

以上